

「^{けっかん}欠陥」があった方がよい？

—^{こうぶつ}鉱物の^{かち}価値とは—

一般に^{いっばん}鉱物は、^{ふじゆんぶつ}不純物や^{われめ}割れ目などが無く、また^{とうめいど}透明度が高いものが美しいとされ、高価です。しかし時には、不純物や割れ目などの入った、いわゆる^{けっかんひん}欠陥品の方が価値が高くなることがあります。皆さんのよく知っている「^{すいしょう}水晶」を例に紹介しましょう。

水晶は、^{せきえい}石英とよばれる^{こうぶつ}鉱物のうち、^{ろっかくちゆうじょう}六角柱状で^{せんたん}先端のとがったきれいな形のをいいます（写真1）。水晶は、^{こうぶつ}鉱物コレクターの中で「^{こうぶつ}鉱物集めは水晶に始まり水晶に終わる」と言われるほど、様々な^{しゅるい}種類があります。

一般に水晶は^{むしよくとうめい}無色透明ですが、他にも^{むらさきすいしょう}紫水晶（アメシスト）や^{けむすいしょう}煙水晶（写真2、茶～黒色）、^{バラせきえい}バラ石英（ピンク～赤色）など、いろいろな色をした水晶があります。これらの色のちがいは、^{せいぶん}成分のちがいではなく、^{けっしょう}わずかに入り込んだ^{こうぶつ}不純物や、^{こうぶつ}鉱物を作っている^{けっしょう}結晶の^{こうしけっかん}格子欠陥[※]によるものです。「^{ルチルクォーツ}ルチルクォーツ（写真2）」や「^{くさい}草入り水晶」「^{みずい}水入り水晶」など、水晶の中に別の何か（別の^{こうぶつ}鉱物や水など）が入っているものもあります。また、水晶に割れ目が入ると、時々割れ目に^{にじいろ}虹色の光が見えることがあり、^{レインボークォーツ}レインボークォーツとよばれています。

このような水晶は、^{めずら}無色透明の水晶よりも^{めずら}珍しいため、人気があります。一般に「悪い」とされる^{こうぶつ}不純物や割れ目などが、^{こうぶつ}鉱物の価値を高めるのです。^{きしょうせい}鉱物の価値は、「^{めずらしさ}稀少性（めずらしさ）」や「^{うつくしさ}美しさ」、「^{とれた場所}とれた場所」などによって決まります。しかし、「^{うつくしさ}美しさ」にはいろいろな^{きじゆん}基準があり、簡単に価値を決めることができません。どういうものを良しとするかは、人それぞれでいいのです。自分の^{むね}胸にビビッときた^{いし}石探しをするのが、^{こうぶつ}鉱物集めの楽しさの一つですね。

（2011年6月 増渕 佳子）

※^{こうぶつ}鉱物は、^{げんし}原子や^{ぶんし}分子とよばれるものが^{きぎよく}規則正しく^{ならん}並んでできています。これを^{せいじゆん}クラスの^{せいじゆん}整列に例えます。たまに^{かたが}誰か^あ抜けていなくなったり、よその^{こうぶつ}クラスから^{かたが}誰か^あ紛れ込んだり、^{れい}列がぐに^あちゃっと^あ乱れたりすることがありますよね。こういう状態を、^{こうしけっかん}格子欠陥[※]といいます。



写真1 水晶（山梨県塩山産；当館所蔵品）



水 晶



煙水晶



ルチルクォーツ
（針入水晶）

写真2 いろいろな水晶。ルチルクォーツは、石英に金紅石という別の^{こうぶつ}鉱物が入っている。